

# 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求からみた青少年のSNS利用

## SNS Use of Young People as Seen from Praise Seeking Need and Rejection Avoidance Need

加藤 千枝\*

### 要旨

本研究では301名の青少年を対象に質問紙調査を行い、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求得点から協力者を分類した上で、SNS利用の実態を明らかにした。第一に、得点を基にクラスター分析を行った結果、協力者を両欲求低群、両欲求高群、拒否回避欲求高群の3群に分類できた。第二に、SNS利用の有無については、高群が低群・拒否群よりもSNSを利用していない者が多かった。その理由として、高群はSNS利用のリスクを理解しているためだと思われる。

キーワード：青少年 (Young People) / インターネット (The Internet) /  
賞賛獲得欲求 (Praise Seeking Need) / 拒否回避欲求 (Rejection Avoidance Need)

### I. 研究背景

本研究では他者から賞賛を得たいという欲求である賞賛獲得欲求と他者から拒否されたくないという欲求である拒否回避欲求得点を基に16～20歳の青少年の協力者を分類した上で、各々のインターネット利用、とりわけSNS利用の実態を明らかにすることが目的である。その意義について、以下4点から整理する。

#### 1. 青少年へのSNS利用の広まり

現在、多くの青少年がスマートフォンや音楽プレイヤーなど自分専用のネット端末を有し、複数のサイト・サービスを利用していることは先行研究より明らかである(内閣府, 2013等)。特に、学年段階と共にネット利用は盛んになり、デジタルアーツ(2012)の調査によると、1日あたりのネット利用時間として「3時間～6時間未満」「6時間～9時間未満」と回答した高校生は小中学生よりも多いことが指摘されていた<sup>(注1)</sup>。上記の結果が得られた理由として、高校生(特に女子高校生)はフィルタリングを導入せずにネット端末を利用している点が挙げられる。つまり、コントロー

ルされていないネット端末からネットを利用することで、高校生の場合、1日あたりのネット利用時間が長くなると推測される。

では、高校生は1日数時間もネット上で何をしているのだろうか。先のデジタルアーツ(2012)の調査によると、学年段階と共に利用が増加するサイト・サービスとしてSNSが挙げられていた。SNSについて、例えば河井(2012)は「既存の社会的つながりの維持や新たな社会的つながりの構築を支えるためのオンラインサービス」としており、また総務省(2009)は「人と人との繋がりを促進・サポートする機能を持ち、ユーザー間のコミュニケーションがサービスの価値の源泉となっている会員専用のウェブサービス」と定義している。つまり、SNSとは「既存の繋がりを維持・強化したり、新たな繋がりを構築したりする特性を持ち、ユーザー間の繋がりがそこでのやりとりがサービスの価値となっている会員専用のウェブサービス」である。高校生は既存の繋がりを維持・強化したり、新たな繋がりを構築したりするために、SNSを1日数時間も利用していることが考えられる。

#### 2. SNS利用と賞賛獲得欲求・拒否回避欲求

先行研究より、高校生はSNS上で多くの時間を過ごしていると思われるが、彼・彼女らはSNS

\* KATO, Chie  
北陸学院大学 非常勤講師

上でどのような情報をやりとりしているのか。具体的には、自身で日記などを発信したり、友人・知人の発信に対してコメントをしたり、「いいね！」ボタンなどの機能があればそれらを利用したりしているであろう。そのような情報のやりとりを行う理由として、SNS上の機能を上手く利用することで他者との良好な関係を形成・維持できる点が挙げられる。例えば、友人・知人から自身の発信に対してコメントをもらったり、「いいね！」ボタンを押してもらったりすることに対して、嫌悪感などを抱く者はほとんどいないと思われる。それゆえ、一部の者は友人・知人に喜んでもらうため、または自分自身に対する良い印象を相手に抱かせるため必要以上に、それらの機能を利用する者がいることも考えられる。このように、「みんなの人気者になりたい」「人を感心させたい」といった項目から構成される、他者からの肯定的な評価の獲得を目標とする賞賛獲得欲求(菅原, 1986; 小島ら, 2003)とSNS利用は少なからず関連があると思われる。

一方、他者から否定されることを避けるために、頻繁に他者の発信に対してコメントをしたり、「いいね！」ボタンを押したりする者も少なからずいると思われる。このように他者から「嫌われたくない」「変な人だと思われたくない」といった否定的な評価を回避しようとする欲求を拒否回避欲求とし、菅原(1986)や小島ら(2003)は賞賛獲得欲求とは異なる概念であると指摘した。

### 3. 本研究の目的

先行研究より、賞賛獲得欲求または拒否回避欲求の高低によってSNSを始めとしたネット利用の仕方に差異が出るのが予想される。例えばネット利用全般に関して、賞賛獲得欲求得点が高い者は他者から賞賛を得るため、拒否回避欲求得点が高い者は他者から拒否されることを避けるために、1日あたりのネット利用時間やメール送受信数が多くなると考えられるし、SNS利用の仕方にも差が出てくることが考えられる。具体的には、SNSでの相互リンク数(友達の数)、1日あたりのSNSへのアクセス数・コメント数・「いいね！」ボタンを押す回数などが異なると推測される。

上記を踏まえ本研究では、16~20歳の青少年を対象に賞賛獲得欲求と拒否回避欲求得点から協力者を分類し、各群のネット利用、とりわけSNS利用の実態を明らかにする。なお、16~20歳の青少年を調査対象とする理由として、先に言及した通り、高校生は小中学生よりも積極的にSNSを利用していると思われるし、高校を卒業した者(大学生や専門学校生など)はフィルタリングや保護者からの干渉なしに自由にネットを利用できる環境にあると思われるため、SNSに関する質問に回答し易いと考えたからである。以上の理由から、16~20歳の青少年を対象として調査を行った。

## II. 調査方法

### 1. 対象者

筆者がこれまでネットモラル・リスク教育の中で携わったことのある、関東地方のA高校2年生(1クラス40名)、B高校2・3年生(3クラス126名)、C短期大学1・2年生(3クラス135名)に在籍する16~20歳の301名を対象に、質問紙調査を実施した。なお、各校における協力者の抽出はクラス単位の無作為抽出を採用した。

### 2. 質問紙の内容

本調査における質問項目は、群馬大学社会情報学研究センター(2010)で実施された質問紙調査の項目を参考にして作成したものである<sup>(注2)</sup>。また、小島ら(2003)の研究から賞賛獲得欲求と拒否回避欲求を測るための16項目を用いた。

### 3. 手続き

調査用紙の冒頭に個人情報保護及び研究参加の任意性を紙面上で説明し、協力者から調査実施の同意を得た上で実施した。調査は学校長の了解のもと、2011年12月下旬から2012年1月下旬に、各校のホームルームの時間に10分程度で実施された。また、質問用紙、回答用紙の回収は各校の教員に依頼した。

### 4. 分析方法

学生にはマークシートでの回答を依頼し、得られた回答はExcelを用いて単純集計を行った後、詳細な分析についてはAddinssoft社のXLSTATを

利用した。なお、全ての検定において有意水準  $\alpha = 10\%$  とする。

### Ⅲ. 結果

#### 1. クラスタ分析による分類

表-1 は賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の平均得点と標準偏差を示したものである(表-1)。小島ら(2003)の研究と同様に、各々の質問項目について「1.あてはまらない」から「5.あてはまる」の5件法で尋ね、それらを得点化した。

ウォード法を用いたクラスタ分析を行った結果、図-2のデンドログラムを得た(図-2)。また、各群の賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の平均得点は表-2の通りである(表-2)。上記を踏まえ、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求得点が共に平均より低い群を「両欲求低群」、両得点が共に平均より高い群を「両欲求高群」、賞賛獲得欲求得点が平均より低く、拒否回避欲求得点が平均より高い群を「拒否回避欲求高群」と称する(以下、括弧をはずす)。各々の得点について1元配置の分散分析を行った結果、賞賛獲得欲求( $F(2) = 131, p < 0.01$ )、拒否回避欲求( $F(2) =$

202,  $p < 0.01$ ) 共に有意差が認められた。

#### 2. クラスタ分析によって分類された各群の特性

##### (1) 性別

表-3は各群と性別のクロス集計表である(表-3)。 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(2) = 0.62, ns$ )。

##### (2) 1日のネット利用時間とメール送受信数

表-4は各群と1日のネット利用時間のクロス集計表である(表-4)。全体的な傾向として、1日のネット利用時間が「2時間未満(1時間以上~2時間未満)」「3時間以上」と回答した者が多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(8) = 9.12, ns$ )。

表-5は各群と1日のメール送受信数のクロス集計表である(表-5)。全体的な傾向として、1日のメール送受信数が「10通未満」と回答した者が最も多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(6) = 8.06, ns$ )。

表-1 平均得点と標準偏差

	賞賛獲得 欲求	拒否回避 欲求
M	24.2	29.3
SD	7.15	7.32

表-2 各群の平均得点

群	賞賛獲得 欲求	拒否回避 欲求
両欲求 低群	20.4	19.9
両欲求 高群	28.9	32.1
拒否回避欲求 高群	18.0	33.4

表-3 男女の人数(%)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回避 欲求高群	計
男	45(58.4)	94(60.6)	38(55.1)	177
女	32(41.6)	61(39.4)	31(44.9)	124
計	77(100)	155(100)	69(100)	301

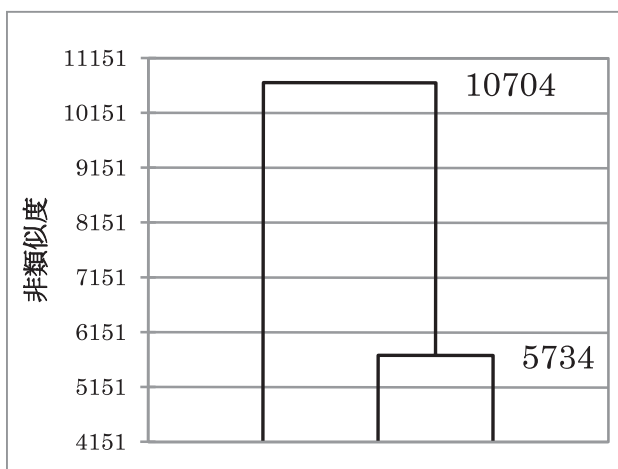


図-2 クラスタ分析によるデンドログラム  
(左から両欲求低群, 両欲求高群, 拒否回避欲求高群)

表-4 1日のネット利用時間(%)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
30分未満	8 (10.4)	18 (11.6)	6 (8.7)	32
1時間未満	13 (16.9)	32 (20.6)	10 (14.5)	55
2時間未満	22 (28.6)	49 (31.6)	17 (24.6)	88
3時間未満	11 (14.3)	28 (18.1)	12 (17.4)	51
3時間以上	23 (29.9)	28 (18.1)	24 (34.8)	75
計	77 (100)	155 (100)	69 (100)	301

表-5 1日のメール送受信数(%)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
10通未満	37 (48.1)	74 (47.7)	39 (56.5)	150
10~19通	15 (19.5)	31 (20)	19 (27.5)	65
20~29通	9 (11.7)	17 (11)	2 (2.9)	28
30通以上	16 (20.8)	33 (21.3)	9 (13)	58
計	77 (100)	155 (100)	69 (100)	301

(3) SNS利用の有無とサイト・サービス

表-6は各群とSNS利用の有無のクロス集計表である(表-6)。全体的な傾向として、SNSを利用しているの方がしていない者よりも多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差が認められたので( $\chi^2(2) = 4.76, .05 < p < .10$ )、併せて残差分析も行った(表-7)。

次にSNS利用者に対して利用しているサイト・サービスを複数回答で求めたところ、表-8のク

表-6 SNS利用の有無(%)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
SNS利用	55 (71.4)	93 (60.0)	50 (72.5)	198
SNS非利用	22 (28.6)	62 (40.0)	19 (27.5)	103
計	77 (100)	155 (100)	69 (100)	301

表-7 調整された残差

(\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , †  $p < .10$ , ns有意差なし)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群
SNS利用	1.21	-2.18	1.33
SNS非利用	ns	*	ns
SNS利用	-1.21	2.18	-1.33
SNS非利用	ns	*	ns

ロス集計表が得られた(表-8)。全体的な傾向として、「mixi」「モバゲー」「GREE」を利用している者が多かった。また、精度は落ちるが $\chi^2$ 検定をした結果、有意差はなかった( $\chi^2(16) = 7.60, ns$ )。

(4) SNSでの相互リンク数

表-9は各群とSNSでの相互リンク数(友達の数)のクロス集計表である(表-9)。全体的な傾向として、相互リンク数が「0~19人」と回答した者が最も多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(8) = 3.02, ns$ )。

(5) 1日あたりのSNSへのアクセス数

表-10は各群と1日あたりのアクセス数のクロス集計表である(表-10)。全体的な傾向として、1日のアクセス数が「1~5回」と回答した者が最も多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(6) = 4.25, ns$ )。

表-8 利用しているサイト・サービス

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
mixi	27	64	26	117
モバ ゲー	28	64	23	115
GREE	26	64	24	114
Face Book	6	10	5	21
アメ ーバ	17	48	18	83
大集合 NEO	2	1	1	4
モバ レボ	1	1	0	2
ハン ゲーム	9	19	7	35
その他	18	25	16	59
計	134	296	120	550

表-9 SNSでの相互リンク数(%)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
0~19 人	23 (41.8)	37 (39.8)	20 (40.0)	80
20~39 人	9 (16.4)	15 (16.1)	11 (22.0)	35
40~59 人	8 (14.5)	16 (17.2)	4 (8.00)	28
60~79 人	4 (7.27)	7 (7.53)	5 (10.0)	16
80人 以上	11 (20.0)	18 (19.4)	10 (20.0)	39
計	55 (100)	93 (100)	50 (100)	198

表-10 1日あたりのSNSへのアクセス数(%)

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
0回	4 (7.27)	8 (8.60)	5 (10.0)	17
1~5回	29 (52.7)	41 (44.1)	20 (40.0)	90
6~10 回	10 (18.2)	15 (16.1)	13 (26.0)	38
11回以上	12 (21.8)	29 (31.2)	12 (24.0)	53
計	55 (100)	93 (100)	50 (100)	198

表-11 1日あたりのSNSでのコメント数

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
0回	19 (34.5)	29 (31.2)	15 (30.0)	63
1~5回	27 (49.1)	48 (51.6)	26 (52.0)	101
5回 以上	9 (16.4)	16 (17.2)	9 (18.0)	34
計	55 (100)	93 (100)	50 (100)	198

表-12 1日あたりのSNSでの「いいね!」の数

	両欲求 低群	両欲求 高群	拒否回 避欲求 高群	計
0回	24 (43.6)	42 (45.2)	29 (58.0)	95
1~5回	17 (30.9)	32 (34.4)	9 (18.0)	58
6回 以上	5 (9.10)	14 (15.1)	7 (14.0)	26
機能 なし	9 (16.4)	5 (5.38)	5 (10.0)	19
計	55 (100)	93 (100)	50 (100)	198

#### (6) 1日あたりのSNSでのコメント数

表-11は各群と1日あたりのコメント数のクロス集計表である(表-11)。全体的な傾向として、1日のコメント数が「1～5回」と回答した者が最も多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(4)=0.29, ns$ )。

#### (7) 1日あたりのSNSでの「いいね!」の数

表-12は各群と1日あたりの「いいね!」のクロス集計表である(表-12)。全体的な傾向として、1日の「いいね!」の数が「0回」と回答した者が最も多かった。また、 $\chi^2$ 検定の結果、有意差はなかった( $\chi^2(6)=9.81, ns$ )。

### IV. 考察

#### 1. 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求得点に基づく

##### 協力者の分類と各群の傾向

本研究では賞賛獲得欲求・拒否回避欲求得点を基にクラスター分析を行った結果、両欲求低群、両欲求高群、拒否回避欲求高群という3つの群を生成できた。小島(2011)の研究では、両欲求低群に属する者は他者の評価を気にせず、自分自身の基準でのみ物事をとらえやすい傾向にあると考えられ、いわゆる自己中心性が発揮されやすいとされていた。次に、両欲求高群に属する者は状況によって視点を変え得ることができ、過去の経験については肯定的に捉え、将来の出来事については否定的に捉えることであらゆる可能性に対応できるとしていた。最後に、拒否回避欲求高群に属する者は他者からの否定的な評価を回避することが優先すべき事項であり、他者から肯定的な評価を得るという発想をしにくいとされていた。

上記の特性はネット利用については勿論、SNS利用の仕方にも影響を与えていると思われる。具体的な各群のネット利用・SNS利用については、以下の項目で考察したい。

#### 2. クラスター分析により生成された各群のネット利用

本研究の結果より、1日あたりのネット利用時間・メール送受信数について、群間で有意差はなかった。賞賛獲得欲求または拒否回避欲求が高い者ほどオフラインの世界だけでなくオンラインの

世界でも、“他者から褒められたい”もしくは“否定されたくない”と考え、それに準じた言動をとることが考えられるため、他者に良い印象を与える目的で1日あたりのネット利用時間やメール送受信数が多くなることが予想されたが、本研究ではそのような結果を得ることができなかった。

しかし、例えば拒否回避欲求高群は、1日あたりのネット利用時間が「3時間以上」と回答した者は他の群より多かったが、1日あたりのメール送受信数が「30通以上」と回答した者は少なかった。上記より、メール1通を送るのに他の群よりも多くの時間を有していること、若しくは、メール以外の複数のサイトやサービスを利用していることが考えられる。この点については今後更なる研究を重ね、各群のネット利用の特性を明らかにしたい。

#### 3. クラスター分析により生成された各群のSNS利用

結果から、両欲求高群は他の群よりもSNS非利用者が多かった。先行研究より、賞賛獲得欲求が高い者ほどSNSを始めとしたネット利用が積極的になると思われたが、実際は異なる結果が得られた。その理由として、両欲求高群は賞賛獲得欲求だけでなく、拒否回避欲求も高いことから、拒否回避欲求の高さが、SNSの利用の有無に何らかの影響を与えていることが考えられる。小島(2011)の研究において、両欲求高群に属する者は状況に応じて視点を変えることができる特性があると指摘されていたことから、SNS利用に伴うメリットだけでなく、個人情報流出・悪用やサイバーストーカー等のリスクも同時に理解していたと思われる。それゆえ、単に賞賛獲得欲求の高い者がSNSを積極的に利用するというのではなく、両欲求高群は他の群よりもSNS非利用者が多かったと考えられる。また、両欲求高群がSNS以外のサイト・サービスを利用している可能性やネット機能自体を積極的に利用していないことも考えられ、今後検証が必要になる。

一方、利用しているサイト・サービスやSNSでの相互リンク数、1日あたりのSNSへのアクセス数・SNSでのコメント数・SNSでの「いいね!」の数について、有意差はなかった。賞賛獲

得欲求・拒否回避欲求の高低がSNS機能の利用に影響を与えると予想したが、本研究の結果からは明らかとならなかった。その理由として、本研究の調査が「いいね！」機能を有する代表的なSNSである「facebook」が10代に浸透する前に行われたことが考えられる。調査当時、日本における「facebook」の利用者数は700万人弱であったことから（Cereja Technology, 2012）、10代後半から20代前半で「facebook」を利用している者は一部であったと推測される。実際、本研究の結果でも「facebook」を利用している者は多くなかった（一方、コメント機能が充実している「mixi」などの利用が顕著であった）。以上のような背景から、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求の高低がSNS機能の利用に影響を与えなかったと思われる。

考える。

## V. 結論

本研究は賞賛獲得欲求・拒否回避欲求得点を基に16～20歳までの青少年の協力者を分類した上で、各群のネット利用、とりわけSNS利用の実態を明らかにすることが目的であった。結果として第一に、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求得点からクラスター分析を行い、協力者を両欲求低群、両欲求高群、拒否回避欲求高群の3群に分類できた。先行研究において、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求得点に基づく協力者の分類と、各群のネット利用・SNS利用について言及した研究は少ないので、本研究の新規性が明らかになったと思われる。第二に、SNS利用の有無について両欲求高群は他の2群よりもSNSを利用している者が少なかった。その理由として、SNS利用のメリットだけでなく、リスクを理解しているため、利用に消極的であるという点、また、SNS以外のサイト・サービスを利用している可能性やそもそもネット機能自体を積極的に利用していない点が考えられたが、これらについては詳細な検証が必要だと思われるため、今後の課題としたい。

本研究では賞賛獲得欲求と拒否回避欲求からネット利用の中でも特にSNS利用に注目し、調査研究を行ったが、今後SNSは勿論のことそれ以外のネット上のサイト・サービスやフィルタリング導入の有無、ネットを介した出会い経験の有無など複数の項目から各群の特性を明らかにしたいと

<注>

- 1)デジタルアーツ(2012)の調査は弘前大学大谷教授監修の下、全国の小中高校生男女およびその保護者層1,236名を対象としたものである。フィルタリング・サービスを利用している者やネットを利用している者に限定した調査ではないので、結果の一般性は比較的高いと思われる。
- 2)質問項目は以下の通りである。なお、紙面の都合上、一部の項目は省略し、レイアウトは変更してある。

性別【選択肢】①男②女

年齢【自由記述】満( )歳

1. あなたはインターネットを一日平均何時間くらい利用していますか(ケータイ・パソコン・その他ネット機器からの利用時間の合計)。いずれかを選んでください。

【選択肢】①30分未満②30分～1時間未満③1時間～2時間未満④2時間～3時間未満⑤3時間以上

2. あなたは(ケータイ・パソコン・その他ネット機器から)Eメールを一日平均何通くらい送受信していますか(ショートメールを除く)。いずれかを選んでください。

【選択肢】①10通未満②10～19通③20～29通④30通以上

3. 以下のSNSサイト(ソーシャル・ネットワーキング・サイト)であなたが会員登録をし、利用しているものはありますか。あてはまるものを全て選んでください。

【選択肢】①mixi(ミクシィ)②モバゲー③GREE④facebook⑤アメーバブログ⑥大集合NEO⑦モバレボ⑧ハンゲーム⑨その他⑩SNSサイトは利用していない→6へ

4. あなたが一番利用しているSNSの相互リンクは何人ですか。いずれかを選んでください。  
※相互リンクとは、例えばmixi(ミクシィ)だと「マイミクシィ」のことです

【選択肢】①10人未満②10～19人③20～29人④30～39人⑤40～49人⑥50～59人⑦60～69人⑧70～79人⑨80人以上

5. あなたが一番利用しているSNSサイト(ソーシャル・ネットワーキング・サイト)について、以下(1)～(3)の数を教えてください。

(1)一日あたり何回くらいそのSNSにアクセス(接続)しますか

【選択肢】①0回②1～5回③6～10回④11回以上

(2)一日あたり何回くらいそのSNSに書き込み(コメント)しますか

【選択肢】①0回②1～5回③6～10回④11回以上

(3)一日あたり何回くらいそのSNSで「いいね!」ボタンを押しますか

【選択肢】①0回②1～5回③6～10回④11以上⑤ボタンはない(機能なし)



## 謝辞

本論文をまとめるにあたり、ご指導いただきました金沢大学大学院 田邊浩先生に心より感謝申し上げます。

### <参考文献>

- Cereja Technology(2012)「Press Release」 <[http://www.cereja.co.jp/press\\_release20120127.pdf](http://www.cereja.co.jp/press_release20120127.pdf)> Accessed 2014, January 8
- デジタルアーツ (2012)「未成年の携帯電話・スマートフォン使用実態調査～携帯電話・スマートフォンの利活用における親子の意識差・実態を調査～」  
<[http://www.daj.jp/company/release/data/2012/071201\\_reference.pdf](http://www.daj.jp/company/release/data/2012/071201_reference.pdf)> Accessed 2014, January 8
- 群馬大学社会情報研究センター (2010)「モバイル・インターネットの進展と親密圏の社会的変容に関する総合的研究」  
<<http://www.si.gunma-u.ac.jp/kenkyu/intimacy/index.html>> Accessed 2014, January 8
- 河井大介 (2012)「SNS依存者の生活習慣的影響と利用機能の分析—2010年A社SNS調査結果より—」『社会情報学研究』, 16(2), 157-170
- 小島弥生・太田恵子・菅原健介 (2003)「賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み」『性格心理学研究』, 11(2), 86-98
- 小島弥生 (2011)「防衛的悲観性と賞賛獲得欲求・拒否回避欲求の関連—2つの承認欲求がともに強い人の特徴について—」『埼玉学園大学紀要. 人間学部篇』, 11, 67-74
- 内閣府 (2013)「青少年のインターネット利用環境実態調査」  
<<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/html/index.html>> Accessed 2014, January 8
- 総務省 (2009)『ブログ・SNSの経済効果に関する研究報告書』  
<<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2009/2009-I-13.pdf>> Accessed 2014, January 8
- 菅原健介 (1986)「賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求—公的自意識の強い人に見られる2つの欲求について」『心理学研究』, 57(3), 134-140

